

“スピード”と “地道さ”を兼ね備え、 航空機内装部品の 製造に特化

代表取締役 高橋 直人氏

生産管理の複雑さ

航空機内装部品の製造は、機体やエンジンの部品製造とは管理面において異なる。たとえ同機種でも納入先の航空会社が違ったり、さらに同じ航空会社でも機体によって内装が違う。そのため生産管理がかなり複雑なのだ。

1961年の創業以来、航空機内装部品製造を行っている高橋精機製作所では、独自の生産管理システムを構築することで管理の複雑さを改善した。2000年過ぎ、高橋社長自ら独学でシステムを開発しようと試み、1年かけて社内ネットワークを作ったのだ。「完成した時のことはよく覚えています。夜中3時に一人でにんまりしましたよ」。それまでは紙の図面・書類の管理が大変だったが、システムにより格段に楽になった。

高橋精機製作所が製造するのは、航空機のギャレー（厨房設備）部品、ラバトリー（化粧室構造）部品を主に、その他スベアパーツなどだ。創業当時から株式会社ジャムコの仕事を受け、防衛庁の航空機整備や、立川、宮崎、新潟のジャムコ拠点とそれぞれ取引を行ってきた。またジャムコ・アメ

リカとの取引ではテロ対策に特化したドアノブを製造したこともある。そして今狙っているのが、航空機のシート製造だ。

シート製造への参入

2010年頃、高橋社長はシート製造のための営業を開始した。「アメリカに行った時にビジネスクラスやファーストクラスの座席を見て、「これはアルミの削り出しの固まりだ!」と気づいたのです。しかもそれが何席もある」。調べてみると、ジャムコ・アメリカで何百億円もかけシート製造をするというニュースが目に入った。これはやるしかない、と思った。

実は過去に、日本のジャムコでシートの製造を3機だけ担当したことがある。しかしその後撤退し、シート製造はアメリカやフィリピンで行われていた。それが2015年、宮崎県でジャムコがシートを製造するという情報が入った。高橋社長は即「宮崎に工場を出そう」と決めた。

シート製造の受注は決まっていなかったが、とにかく製造拠点を確保しようと競合他社に先駆けて、2016年3月に立地調印式を行った。工場敷地は約7,800㎡で、埼玉の既存工場の4倍になる。シート製造の



社内ネットワーク「SPEED_MILL21」メインメニュー

ためには、機械加工のほか組み立てがメインになる。ジャムコ側も、高橋精機製作所にはサブアッセンブリーを任せたいと予定している。高橋社長は「メッキはできないので、トータルのシート製造には対応できていません。現状はジャムコさんが面倒な部分を担おうとしています。しかし、最終的にはマルチにできなければいけません。いずれは治具の開発をしてよりアッセンブリーにできる提案をしていくつもりです」と意気込む。

宮崎工場の稼働は2017年1月を予定している。そのための現地採用に力を入れており、募集をかけたとたん、航空機業界へ憧れる県内の人材が殺到した。また、HP、会社パンフレット、名刺を完全リニューアル。飛行機のデザインを前面に押し出したことにより、今後も永く航空機業界を担っていく決意を感じさせた。

●会社概要

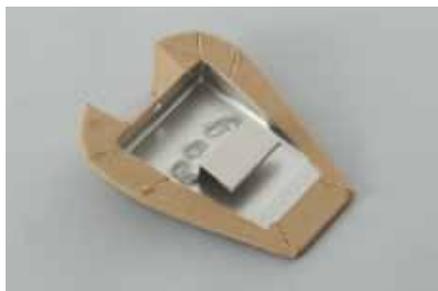
株式会社 高橋精機製作所

■住 所： 埼玉県入間郡三芳町上富中西1483
TEL. 049-274-5100
FAX. 049-274-5200

■社員数： 36名
■代 表： 高橋 直人
■問合せ担当： 穴澤 政典
■エミダス番号： 72739



航空機用ギャレー（厨房設備）部品



航空機用シート部品